

2019年12月19日(木)

ないじえる芸術共創ラボ 古典インタプリタ日誌 梁亜旋さんWS 不思議な絵巻・奈良絵本

1, 絵巻の不思議な魅力に迫る

絵巻の持つ神秘的な魅力や、そこに描かれた民間信仰に関心を持つ梁さん。夏に引き続き、絵巻や絵本を専門としておられる恋田知子先生(当館准教授)とのワークショップを開催しました。



2, めでた尽しの「大黒舞」

この日恋田先生が最初にご紹介くださったのは、「大黒舞」¹と呼ばれる、きらびやかでおめでたい作品です。

主人公の孝行心により、富をもたらしてくれる神様である大黒さ



まと恵比寿さまが家にやってきて、相撲をとったり舞を舞ったりしてくれるというなんとも縁起の良いストーリー。

神様にお仕えする「眷属」も登場します。

大黒さまにはネズミが、恵比寿さまには魚介類が、それぞれお供としてやってきているのですが、魚介のみなさんは頭に貝が乗って

¹ <https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200006198/viewer/1>

2019年12月19日(木)

いたり、ヒョウ柄のファのようなものをつけていたりしてなんだかお洒落です。これらは、彼らが異界の存在であることを示しているのだそうです。



「大黒舞」は、お正月に玄関前でめでたい舞を舞う「門付け芸」の風習を描いたものでもあるそうです。節分(=旧正月)の季節の物語なのです。



さらにイワシを飾っていたり豆まきをしていたりと、現代にも続く風習が描かれているのも楽しいところです。

ちなみに梁さんの出身地である中国では、旧正月には豆ではなく爆竹を鳴らして、大きな音で厄をはらったり、食べ物に困らないように台所の神様に食物をお供えしたりするそうです。

このように、めでたい内容を描いた絵巻は、それ自体が縁起物として扱われたそうです。

2019年12月19日（木）

3,神秘的な「子易の本地」

この日はさまざまな資料についてレクチャーをしていただきましたが、中でも梁さんが興味を持たれたのは「子易の本地」²という絵巻でした。



身体がくっついた双子が生まれ、異形のため最初は迫害されるが最後にはお地蔵さまになるという宗教的なお話なのですが、中国では変わった姿をした子どもが生まれた場合、前世の報いとして扱われるため、神仏として扱われることが興味深かったそう。

人間は説明できない事柄を、神仏や妖怪として理解するのもかもしれませんね、と語り合いました。

² 請求記号：29-6-1～2

この作品には、人を苦しめる鬼が登場し、双子を護る不思議な力が打払うという場面があります。こういった鬼退治の物語は、絵本ではなく巻物に描かれることが多いそうで、巻いてしまって怖いものを封じ込める意味合いもあるのだとか。形状と内容が深く関わっているのですね。



2019年12月19日（木）

3, 絵巻を比べてみること

ところでこの日のワークショップで、恋田先生が設定して下さったもうひとつのテーマは、^{あさくらじゅうけん}朝倉重賢という能書家が^{ことばがき}詞書を書いたのではないかと、いわれている絵巻を比較して見てみることでした。



作者がわからないことの多い絵巻を研究する上で、ある程度の作品群をまとめて観察することで傾向を分析する方法は、とても大切なのだそうです。

詞書の筆致だけでなく、使われている豪華な料紙や、絵の中に描き込まれる霞の描き方についても観察しながら、参加して下さった院生さんたちも交えて、さまざまな意見を出し合いました。

